

カヤネズミ *Micromys minutus* (Pallas)

【選定理由】

国内では石川・福島県以南の本州、四国、九州とその属島に広く分布し、県内でも19市5町で生息が認められているが、各地で市街化の進行にともなう生息地の改変により生息環境が急速に失われつつある。

【形態】

体重5.3~14.0g、頭胴長54.0~78.5mm、尾長47~91mm、後足長14~17mm、耳介長7~12mm、頭骨最大長13.7~16.9mm。体は非常に小さく、背面の毛色は赤褐色から暗褐色まで変異がある。腹面は白色。尾は長く、先端部の上面は裸出する。頭蓋では吻の短いのが特徴的であり、卵形で大きな脳頭蓋に幅の狭い頬骨弓をもつ。鼓室胞は大型で、切歯孔の後縁は第1大臼歯の前縁付近かその前方にある。乳頭式は2+0+2=8。歯式はI1/1,C0/0,P0/0,M3/3=16(子安・織田, 2009など)。

【分布の概要】

【県内の分布】

春日井市、小牧市、北名古屋市、弥富市、名古屋市、瀬戸市、尾張旭市、長久手市(過去に記録がある：長久手町生活環境部環境課, 2010)、日進市、東郷町、東海市(絶滅?)、知多市、美浜町、南知多町、豊田市、みよし市、岡崎市、安城市、幸田町、設楽町、新城市、豊川市、豊橋市、田原市(宮尾ほか, 1984; 小鹿, 2005; 子安・織田, 2009; 野呂, 2015; 吉鶴, 2019)。

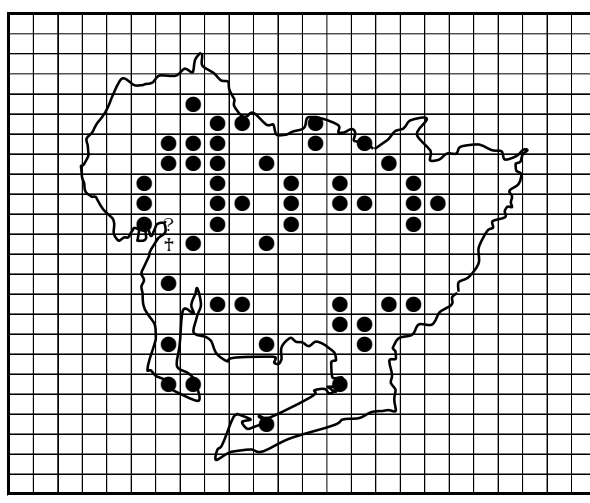
【国内の分布】

石川・福島県以南の本州、四国、九州、隠岐道後、西ノ島、中ノ島、淡路島、豊島、因島、大崎上島、対馬、天草下島、福江島、口永良部島(高田ほか, 2001; Iwasa, 2015)。

【世界の分布】

ヨーロッパから東アジアにかけてのユーラシア大陸(Iwasa, 2015)。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

低地から標高1,200m付近までの山地に分布するが、低地の草地に多く、森林内にはみられない。春から秋にかけてイネ科草本やススキのような草本の茎の途中に植物の葉を細切したものを編み上げた球巣をつくり、産仔や育仔を球巣中でおこなう。1回に2~8仔を産む。冬期は地下の坑道にすむ。草本の茎葉、種子、果実、昆虫などを食べる。野外での寿命は1年あまり(子安・織田, 2009など)。

【現在の生息状況／減少の要因】

本種はイネ科草本の草地に生息する特異な生活様式をもっているために、耕作の放棄された休耕地や県下各地に見られるため池周辺の草地に発達していたことが分布の広がりを保証していた。こうした休耕地や河川敷・ため池周辺での「整備」によってイネ科草本の植生が失われ、生息域が急速に失われつつある(子安・織田, 2009など)。

【保全上の留意点】

休耕地、河川敷、ため池などの周辺では、特に市街化にともなって整備され、結果的にカヤネズミの生息地が失われることが多い。こうした整備を行う場合は、見た目だけの美しさに固執せず、生物多様性の保全に配慮した環境整備を企画する必要がある。

【特記事項】

日本哺乳類学会では種としてのランクが「不能」とされ、生態情報が十分蓄積されていない状況が指摘されている(村上・金子, 1997)。東海市大田町で2018年に発見された生息地は開発によって失われている(吉鶴, 2019)。

【引用文献】

- Iwasa, M.A. 2015. *Micromys minutus* (Pallas, 1771). The Wild Mammals of Japan, 2nd ed., pp.170-171. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.
子安和弘・織田銃一, 2009. カヤネズミ. レッドデータブックあいち2009動物編, p.77. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
宮尾嶺雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.
村上興正・金子之史, 1997. ネズミ亜目 MYOMORPHA. レッドデータ日本の哺乳類, pp.75-90. 文一総合出版, 東京.
長久手町生活環境部環境課, 2010. 長久手町環境資源目録, 48pp. 長久手町, 愛知県長久手町.
野呂達哉, 2015. カヤネズミ. レッドデータブックなごや2015動物編, p.46. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋.
小鹿登美, 2005. 愛知県安城市哺乳類の記録. マンモス特別号, (7): 4-9.
高田靖司・酒井英一・植松 康, 2001. 五島列島福江島と中通島における小哺乳類の採集結果とカヤネズミの特徴. 日本哺乳類学会2001年度大会プログラム・講演要旨集, p.74. 琉球大学理学部, 沖縄県中頭郡西原町.
吉鶴靖則, 2019. 東海市でカヤネズミの巣を確認. 三河生物, 11: 39-40.

(子安和弘・織田銃一)